

一般化4【分野の拡張】【類題2】

3種類の文字 a, b, c の中から重複を許して5個の文字を選び、横1列に並べてできる文字列をワードと呼ぶ。次の問いに答えよ。

- (1) ワードの総数を求めよ。
- (2) 文字列 bc を含まないワードの総数、すなわち b の直後に c がこないようなワードの総数を求めよ。
- (3) 文字列 ac も bc も含まないワードの総数を求めよ。

< '98 名古屋市立大 >

【戦略1】

- (1) 1文字目, 2文字目, ..., 5文字目は全てフリーダムに3通りの選択肢があるため,  $3^5=243$ 【通り】としておしまいです。

- (2) bの後にcがこれないというのは鬱陶しいため,  
n文字のワード  
に一般化して考え, 漸化式を作成することを考えます。

n文字のワードのうち, bcを含まない並べ方を  $x_n$  通りとします。

このうち,  $\begin{cases} a \text{ から始まるものを } a_n \text{ 通り} \\ b \text{ から始まるものを } b_n \text{ 通り} \\ c \text{ から始まるものを } c_n \text{ 通り} \end{cases}$  とします。

ただ, a, c の後ろには何でも置けますが, b の後ろは制限がかかります。

つまり, a, c には対称性があるため,  $a_n=c_n$  として考えてよいわけです。

1文字目がaから始まる場合

a  $\overbrace{\text{○ ○ ○} \dots \text{○}}^{n-1 \text{ 個}}$  ... どの文字から始まってもよく,  $x_{n-1}$  通り

で, aから始まるn文字のワードのうちbcを含まないのは  $x_{n-1}$  通りなので,  $a_n=x_{n-1}$  を得ます。

1文字目がcから始まる場合も同様に  $c_n=x_{n-1}$  を得ますが, これは対称性から  $a_n=x_{n-1}$  であるため, 同じことです。

1文字目がbから始まる場合

b  $\overbrace{\text{a ○ ○} \dots \text{○}}^{n-1 \text{ 個}}$  ... aから始まるn-1個の並べ方  $a_{n-1}$  通り

b  $\overbrace{\text{b ○ ○} \dots \text{○}}^{n-1 \text{ 個}}$  ... bから始まるn-1個の並べ方  $b_{n-1}$  通り

であり,  $b_n=a_{n-1}+b_{n-1}$  となります。

ここからは  $x_n=a_n+b_n+c_n=2a_n+b_n$  ですから  $\begin{cases} a_n=x_{n-1} \\ b_n=a_{n-1}+b_{n-1} \end{cases}$  を用いて  $a_n$  や  $b_n$  を消すように変形していきます。

- (3) 「含まない」という否定的な命題はやはり捉えにくいものです。

そこで, ac, bc という文字列が少なくとも1カ所あるような並びを考えて, (1) で求めた243通りから除くことを考えます。

- (2) で  $x_5=144$  と得られていれば, bcを含むものは

$$3^5-144=99 \text{ 【通り】}$$

ありますから, 対称性から, acを含むものも99通りあります。

ac, bc を共に含むものは, 5文字中4文字が決定しているということで, ほとんど決定しています。

$$acbc \square \quad ac \square bc \quad \square acbc \quad bcac \square \quad bc \square ac \quad \square bcac$$

で,  $\square$  には3通りの文字が入るため,  $6 \cdot 3=18$ 【通り】あります。

よって, ac, bc の少なくとも1カ所に含むようなワードの総数は

$$99+99-18=180 \text{ 【通り】}$$

ということになるため,  $3^5-180=63$ 【通り】と求められます。

【解1】

- (1) 1文字目～5文字目までの文字の選び方はそれぞれ3通りずつあるため

$$3^5 = 243 \text{【通り】} \dots \text{㊦}$$

- (2) 一般に横一列に  $n$  個の文字を並べてできるワードのうち、文字列  $bc$  を含まないような並べ方を  $x_n$  通りとし、

$$\begin{cases} a \text{ から始まるワードの総数を } a_n \text{ 通り} \\ b \text{ から始まるワードの総数を } b_n \text{ 通り} \\ c \text{ から始まるワードの総数を } c_n \text{ 通り} \end{cases}$$

とする。

対称性から  $a_n = c_n$  であり、このとき、

$$\begin{aligned} x_n &= a_n + b_n + c_n \\ &= 2a_n + b_n \dots \text{①} \end{aligned}$$

以下、 $n+2$  文字並べるワードについて考える。

- [1] 1文字目が  $a$  のとき

$$a \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \dots \bigcirc$$

残り  $n+1$  文字のワードの総数を考えると、 $x_{n+1}$  通り

$$\text{よって、} a_{n+2} = x_{n+1} \dots \text{②}$$

- [2] 1文字目が  $c$  のとき

$$c \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \dots \bigcirc$$

残り  $n+1$  文字のワードの総数を考えると、 $x_{n+1}$  通り

よって、 $c_{n+2} = x_{n+1}$ 、すなわち  $a_{n+2} = x_{n+1}$  を得て、[1] と同じ結果を得る。

- [3] 1文字目が  $b$  のとき

$$\begin{aligned} b a \bigcirc \bigcirc \bigcirc \dots \bigcirc \\ b b \bigcirc \bigcirc \bigcirc \dots \bigcirc \end{aligned}$$

残り  $n+1$  文字のワードの総数を考えると、

$$a_{n+1} + b_{n+1} \text{【通り】}$$

$$\text{よって、} b_{n+2} = a_{n+1} + b_{n+1} \dots \text{③}$$

さて、①より  $x_{n+2} = 2a_{n+2} + b_{n+2}$  であるから

$$\begin{aligned} x_{n+2} &= 2a_{n+2} + b_{n+2} \\ &= 2x_{n+1} + a_{n+1} + b_{n+1} \quad (\because \text{②, ③}) \\ &= 2x_{n+1} + x_n + (x_{n+1} - 2a_{n+1}) \quad (\because \text{①}) \\ &= 3x_{n+1} + x_n - 2a_{n+1} \\ &= 3x_{n+1} + x_n - 2x_n \quad (\because \text{②}) \\ &= 3x_{n+1} - x_n \end{aligned}$$

1文字のワードの総数は3通りであるため、 $x_1 = 3$

2文字のワードの総数は  $3^2 = 9$  通りのうち、 $bc$  を除く8通り

よって、 $x_2 = 8$

(\*)より

$$\begin{aligned} x_3 &= 3x_2 - x_1 = 3 \cdot 8 - 3 = 21 \\ x_4 &= 3x_3 - x_2 = 3 \cdot 21 - 8 = 55 \\ x_5 &= 3x_4 - x_3 = 3 \cdot 55 - 21 = 144 \end{aligned}$$

よって、5文字のワードのうち、 $bc$  を含まないものは

$$144 \text{ 通り} \dots \text{㊦}$$

- (3) (2)より、 $bc$  を含む5文字のワードの総数は  $3^5 - 144 = 99$  【通り】

よって、 $ac$  を含む5文字のワードの総数も99通り。

$ac$ 、 $bc$  を共に含む5文字のワードは

$$acbc \square \quad ac \square bc \quad \square acbc \quad bcac \square \quad bc \square ac \quad \square bcac$$

という形をしており、各々の形の  $\square$  には3通りの選択があるため

$$6 \times 3 = 18 \text{【通り】}$$

ゆえに、 $ac$ 、 $bc$  の少なくとも1つを含むような5文字のワードの総数は

$$99 + 99 - 18 = 180 \text{【通り】}$$

したがって、 $ac$ 、 $bc$  を含まない5文字のワードの総数は

$$3^5 - 180 = 63 \text{【通り】} \dots \text{㊦}$$

【戦略2】(2)について

一般化せずに直接数える場合、bcを含まないという否定的なものは数えにくいため、bcを含むものを考える方針をとりたいところです。

bcを含むとなると

bc という塊が1つのみ

bc という塊が2つ

と場合分けをして各々数えていけばいいでしょう。

【解2】(2)について

bcを含むような5文字のワードの総数を求める。

[1] bcを1つのみ含む場合

$3^3$  から bcO, Obc を除く

$$\left\{ \begin{array}{l} bcOOO, OOObc \dots OOO \text{ の入れ方は } 3^3 - 6 = 21 \text{ 【通り】} \\ \square bcOO, OObc\square \dots \left\{ \begin{array}{l} \square \text{ の入れ方は } 3 \text{ 通り} \\ OO \text{ の入れ方は } 3^2 - 1 = 8 \text{ 【通り】} \end{array} \right. \end{array} \right.$$

よって、 $21 \times 2 + (3 \times 8) \times 2 = 42 + 48 = 90$  【通り】

[2] bcを2つ含む場合

bcbcO bcObc Obcbc ... O の入れ方は3通り

よって、 $3 \times 3 = 9$  【通り】

なので、 $90 + 9 = 99$  【通り】 が bcを含むような5文字のワードの総数であり、bcを含まないものは(1)より

$243 - 99 = 144$  【通り】 ... 罫

【総括】

(2)が一般化しても中々のクセモノです。

5文字程度であればもしかしたら【解2】の路線で直接数えてしまった方が早いかもしれません。

10文字とかになるとさすがに【解1】の路線の方に軍配が上がるでしょう。